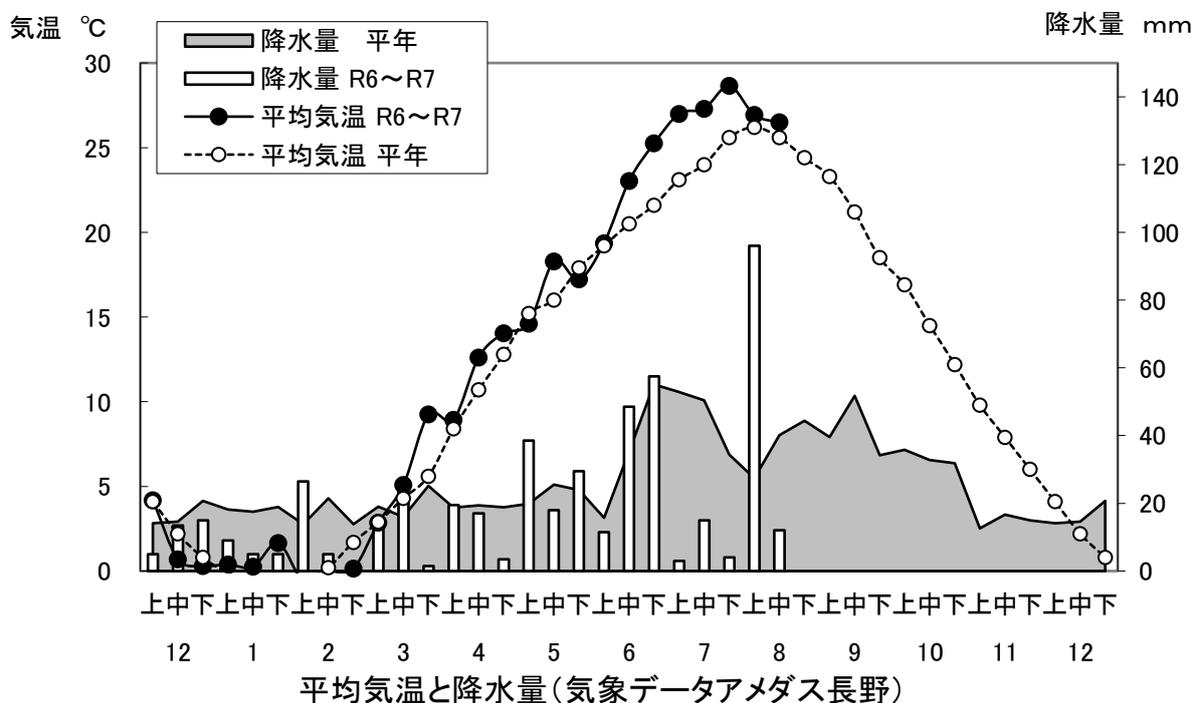


農作物の生育状況（8月16日現在）について

令和7年8月16日
長野農業農村支援センター

【気象データ】



【作物】

(1) 水稲

管内では、移植の早かったほ場や標高の低い地域を中心に収穫期が平年より2~7日早まり、高標高地帯や6月の低温の影響を受けた地域では平年並みかやや早い進展となっている。全体的に草丈が高く倒伏の懸念があるほか、長野市・千曲市・飯綱町で葉もちや穂首もちが確認され、イナゴやクサキリ類による白穂、水不足地域での葉先枯れも散見される。

(2) 大豆

播種期が早かったほ場では出芽・開花が順調に進み、開花期は平年並み~やや早めとなった。麦後晩植の地域でも7月下旬には播種がほぼ終了し、出芽は概ね良好であった。6~7月の高温・少雨の影響で草丈が高くなり倒伏の懸念があり、雑草害に悩まされているほ場が多い。

(3) ソバ

戸隠の「キタワセソバ」は7月下旬に収穫が行われた。秋ソバは7月下旬からは種が始まり、出芽は良好だったが、8月上旬の降雨により、湿害による生育不良が散見される。

【果樹】

(1) りんご

りんご全般において、高温条件が続いたことで日焼け果の発生が多かった。全体的にどの品種も生育が進んでおり、外観の着色よりも内部の酸抜けや硬度低下が早く、内部先熟となっている。肥大は良好で、「ふじ」の8月1日肥大調査では前年比縦91%、横87%、平年比縦99%、横97%とともに平年並みである。梅雨明け後に高温干となりハダニの発生が多くなっている園地が散見される。

(2) ぶどう

7月から高温干ばつが続いた中、お盆前に断続的な降雨となり、巨峰、ナガノパープル、シャインマスカット、クイーンルージュ®等で裂果が発生している。全般的に肥大は降雨が少なかった影響で小さめ、糖度上昇、着色は良好となっている。クイーンルージュ®も着色や糖度上昇は良好となっているが酸抜けが遅れているため、食味を確認しながらの収穫となる見込み。

(3) なし

7月から高温干ばつが続いた影響から「南水」の8月1日肥大調査では、前年比縦85%、横83%、
平年比縦96%、横91%と前年及び平年を下回っている。引き続き病害の発生は少ない状況で推移して
いる。

(4) 核果類

7月から高温干ばつが続いた影響から肥大が進まず小玉傾向となっている。このため、糖度等の内
部品質は出来上がっているものの平年よりも収穫時期が遅れ気味となっている。8月1日肥大調査は
前年比縦96%、横91%、側92%平年比縦102%、横93%、側92%と前年及び平年を下回っている。
せん孔細菌病の発生は少なく、今のところ果実被害も軽微である。

【野菜】

(1) アスパラガス

平坦部及び準高冷地帯の半促成作型（施設）、露地作型はいずれも立茎中で、夏秋どり中だが、一部
で斑点病・茎枯れ病の発生あり。

(2) 果菜類

キュウリ

抑制作型のキュウリが最盛期となっている。露地について草勢が落ちている圃場が出ている。

ピーマンの収穫が各地で最盛期となっている。高温・干ばつの影響による、生長点付近の葉の展張
が悪いこともあり、日焼け果や尻ぐされ果が多い。全般にオオタバコガの被害が見られる。

【花き】

(1) トルコギキョウ

抑制作型の7月中旬定植のものについては、草丈15～20cm程度。高温により草丈が確保できない
まま、早期着蕾、枝数の減少傾向。一部の品種でチップバーンがみられる。

【畜産】

(1) 牧草

2番草の収穫は8月上旬までに終了した。雨が少ないため伸びが良くない。

(2) デントコーン

絹糸抽出期は7月下旬～8月上旬だった。生育は平年並みとなっている。